

2020年8月27日

彰栄リハビリテーション専門学校

校長 鈴木 康洋 殿

学校関係者評価委員会

委員長 滝澤 賢史

学校関係者評価委員会報告

2019年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1. 学校関係者評価委員

- (1) 滝澤 賢史 (愛誠病院 医事統括課長)
- (2) 西谷 剛 (本町まんぞく介護 所長)
- (3) 夏目 啓祐 (ねりま西クリニック 事務長)
- (4) 小林 峻 (武南病院) 【本校卒業生】
- (5) 草野 孝昭 (千葉リハビリテーションセンター) 【本校卒業生】

2. 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第1回：2020年6月26日(土) (彰栄リハビリテーション専門学校)
- 第2回：2020年8月27日(木) (彰栄リハビリテーション専門学校)
- 第3回：2021年1月29日(木) 予定 (彰栄リハビリテーション専門学校)

3. 学校関係者評価委員会報告

別添1参照

以上

2019年度自己点検及び自己評価報告書による評価報告（別添1）

【教育目標と本年度の重点目標の評価】

今後も目標達成に向けて努力してほしい。

【基準1．教育理念・目的・育成人材像】

具体的に明記したので、これをホームページなどの広報に生かし、求める人材育成に努力していきたい。

【基準2．学校運営】

遠隔授業などのICT技術をとり入れた教育を工夫していかななくてはならない。人事評価制度について、学校や学生への貢献度などを含めて適切な判断をする基準が必要である。臨床のベテランよりも若手でも教育にかかわる年数が多い人の方が価値が高いと思われる。

【基準3．教育活動】

教員の負担が偏る課題については、現状について教員間で共有することが必要。授業評価について、360度評価が望ましいと考える。教員の人格否定ではなく、行われた授業に対する客観的な評価を前提とすることが重要、今後検討していく。

【基準4．学習成果】

4-13 就職率 就職説明会だけでなく、卒業生や実習地などを基本としたネットワークづくりができれば、お互いのニーズを確認しマッチングできる。求められる人物像がわかれば学生も動きやすい。実習地との関係づくりにもつながる。

4-15 卒業生の社会的評価 就業状況調査は卒業生の情報や意見は教育の点検や改善、在校生の就職支援に活かされるので、早急に取り組むべきである。評価項目が定まっていると答えやすい。

【基準5．学生支援】

大項目総括 学生との面談回数が前年は1回以上だったが、今回は年数回と手厚く改善されている。外部の相談員窓口について、そこから先の情報共有の検討が必要。学生に対しては、自身の評価や成績には影響せず前向きに今後どうしていくか考える材料とすることの明示があると同意が得やすくなる。

5-17 中途退学への対応 退学に至る要因分析が大切、共通する要因などがわかると事前策をうちやすくなる。その結果を踏まえて、入学前のオリエンテーションやオープンキャンパスの内容を変更することが学校側・学生側の相違が少なくなる。

5-19 学生生活 ワクチン接種については就職の際も求められる可能性あり、そこも理由付

けとなる。新型コロナの関連での就職の進路先の状況や、学費が支払えなくなる中途退学者への支援策など学生生活、相談の在り方においても対策が必要。保護者の経済的事情も今後相当影響を受けるはずなので、連携の機会を増やすことの検討が必要である。

5-21 卒業生・社会人 卒業生を講師助手にお願いすることは大変よいことだ。教員の負担軽減につながる他、在校生にとっても卒業生とも交流が増え、相談窓口も広がる。費用は増えるが、メリットは大きい。在校生にむけた発信の機会を教育とコラボレーションできるとよい。

【基準6 教育環境】

6-22 施設・設備 評価器具の更新は必要、上肢機能検査のARATやBox Block Testなど。

6-24 防災・安全管理 前年度は不十分との報告だったが、今回は消防署に相談して体制づくりを進めていると改善されている。防災訓練の1日も早い実施を望む。

【基準7 学生の募集と受け入れ】

7-25 学生募集活動 SNSを用いた募集活動もある。

7-26 入学選考 志の確認や将来のビジョンなどを確認できるとよい。自分の弱みや強みなど自身のモニタリングの能力がみられる項目があるとよい。

【基準8 財務】

8-28 財務基盤 人件費80%について、そこに至るまでの分析、マネジメントはどのようになっていたか、部門ごとの収支計画、収入減の対策はとれていたか。

【基準9 法令等の遵守】

9-34 学校評価 自己点検及び自己評価をホームページで公開しているが、非常にわかりにくい。もっとわかりやすくするべきだ。

【基準10 社会貢献・地域貢献】

10-37 ボランティア活動 継続性の担保にはカリキュラムの一環として地域活動に従事しれらうのも必要ではないか。地域貢献の必要性などの意図を明示することで少しは能動的になるのではないか。